

62nd SCIENCE AND TECHNOLOGY FILM/VIDEO FESTIVAL

第62回 科学技術映像祭



内閣総理大臣賞 自然・くらし部門

たづ鳴きの里 ～タンチョウを呼ぶ農民たちの1500日～

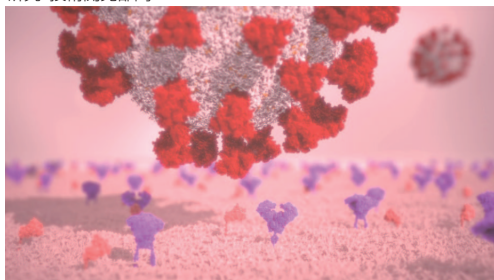
文部科学大臣賞

自然・くらし部門



NHKスペシャル 巨大地下空間 龍の巣に挑む

研究・技術開発部門



NHKスペシャル 新型コロナ 全論文解説 ～AIで迫る いま知りたいこと～

教育教養部門



スギメ (3万年前の航海 徹底再現プロジェクト)

主催／(公財)日本科学技術振興財団、(公社)映像文化製作者連盟
(公財)つくば科学万博記念財団、(一財)新技術振興渡辺記念会
後援／文部科学省、**NHK**、(一社)日本民間放送連盟、(一社)日本新聞協会
(一財)日本視聴覚教育協会、(一財)経済広報センター
国立研究開発法人科学技術振興機構、全国科学館連携協議会
(公財)民間放送教育協会

■表彰式

科学技術館 サイエンスホール TEL: 03-3212-8487

4/16

■入選作品発表会

上映作品、プログラム等の詳細は各施設にお問い合わせのうえ、
ご来場ください。都合により、中止または延期になる場合もあります。

●科学技術館 TEL: 03-3212-8487

サイエンスホール 4/15 ～ 16

科学技術館 4月～2022年3月

●つくばエキスポセンター TEL: 029-858-1100

4/13 ～ 3/31

●旭川市科学館 サイパル TEL: 0166-31-3186

4/1 ～ 2022年3/31 ※土日祝日及び長期休暇中の平日

●帯広市児童会館 TEL: 0155-24-2434

調整中

●はこだてみらい館 TEL: 0138-26-6000

6/1 ～ 30、8/21 ～ 29、11/1 ～ 30

●スリーエム仙台市科学館 TEL: 022-276-2201

4/24 ～ 5/9 ※4/26、5/6休館

●所沢航空発祥記念館 TEL: 04-2996-2225

9/4 ～ 26 ※土日祝日のみ

●新潟県立自然科学館 TEL: 025-283-3331

8/7 ～ 22

●富山市科学博物館 TEL: 076-491-2125

7/10 ～ 8/29

●大阪科学技術館 TEL: 06-6443-5318

4/12 ～ 18、5/5

●5-Daysこども文化科学館(広島市こども文化科学館)

8/1 TEL: 082-222-5346

●阿南市科学センター TEL: 0884-42-1600

調整中

●宮崎科学技術館 TEL: 0985-23-2700

7/21 ～ 8/29

●鹿児島市立科学館 TEL: 099-250-8511

10/1 ～ 31

62nd SCIENCE AND TECHNOLOGY FILM/VIDEO FESTIVAL



第62回 科学技術映像祭

科学技術映像祭は、優れた科学技術映像を選奨することで科学技術への関心を喚起するとともに、その普及と向上をはかり、社会一般の科学技術教養の向上に資することを目的として昭和35（1960）年より開催し、今回、第62回を迎えました。

第62回科学技術映像祭では「自然・くらし部門」「研究・技術開発部門」「教育・教養部門」の3部門に対し、製作者、企画者（スポンサー）、テレビ局、および学術研究機関など、計34機関から65作品（2020年1月1日から2021年1月25日までに完成または放映された作品）が出品され、下記のとおり選定しました。

選定された作品には、内閣総理大臣賞（1作品）、文部科学大臣賞（3作品）、部門優秀賞（6作品）、特別奨励賞（1作品）、つくば科学万博記念財団理事長賞（1作品）、新技術振興渡辺記念会理事長賞（1作品）、科学技術館館長賞（1作品）が製作者ならびに企画者に贈呈されます。

第62回 科学技術映像祭入選作品

内閣総理大臣賞

- 自然・暮らし部門 **たづ鳴きの里 ～タンチョウを呼ぶ農民たちの1500日～**……………4
企画・製作:北海道テレビ放送株式会社

文部科学大臣賞

- 自然・暮らし部門 NHKスペシャル **巨大地下空間 龍の巣に挑む**……………5
企画・製作:日本放送協会
- 研究・技術開発部門 NHKスペシャル **新型コロナ 全論文解説 ～AIで迫る いま知りたいこと～**……………6
企画・製作:日本放送協会
- 教育・教養部門 **スギメ (3万年前の航海 徹底再現プロジェクト)**……………7
企画・製作:独立行政法人国立科学博物館

部門優秀賞

- 自然・暮らし部門 **変形菌のふしぎな一生**……………8
製作:株式会社ドキュメンタリーチャンネル 企画:ミュージアムパーク茨城県自然博物館
- 自然・暮らし部門 **介護崩壊 ～救えなかったクラスター～**……………9
企画・製作:北海道テレビ放送株式会社
- 研究・技術開発部門 **ガリレオX 生物から学ぶ新技術 深化するバイオメティクス**……………10
企画・製作:ワック株式会社
- 教育・教養部門 **日本のチカラ ヒメタツに魅せられて ～再生へ向かう誇りの海～**……………11
製作:株式会社 熊本放送/企画・委託:公益財団法人 民間放送教育協会
- 教育・教養部門 **120秒の科学 未来につながる**……………12
製作:テレビ大阪株式会社/企画・委託:株式会社ジェイワークス
- 教育・教養部門 **NNNドキュメント'20 カネのない宇宙人 信州 閉鎖危機に揺れる天文台**……………13
企画・製作:株式会社テレビ信州

特別奨励賞

- 教育・教養部門 **なっとう いのちの力**……………14
製作:株式会社アイカム/企画・委託:全国納豆協同組合連合会

つくば科学万博記念財団理事長賞

- 教育・教養部門 **120秒の科学 未来につながる**……………12
製作:テレビ大阪株式会社/企画・委託:株式会社ジェイワークス

新技術振興渡辺記念会理事長賞

- 研究・技術開発部門 **ガリレオX 生物から学ぶ新技術 深化するバイオメティクス**……………10
企画・製作:ワック株式会社

科学技術館館長賞

- 研究・技術開発部門 **かがくチップス 日本の骨格を描き出せ! ～地質図作成プロジェクト～**……………15
企画・製作:国立研究開発法人産業技術総合研究所

コロナ禍に見舞われた2020年(募集要項では2020年1月1日～2021年1月25日)に完成した作品を募った第62回科学技術映像祭は、大方の心配を良い方向に裏切り、出品本数は前回より13本多い65本を数え、出品機関数も2増えて34機関と活況を呈した。もちろん、コロナの影響は出ており、ウェブで発表するために作られた小編、短編の応募が増えた。今回はこれらも他の映像作品と同じ土俵で評価せざるをえなかったが、今後、このような作品が増えると予想される中、それで良いのか、異なる評価軸を検討すべきではないかという宿題が残った。

部門別の出品点数は、自然・くらし部門18本、研究・技術開発部門8本、教育・教養部門39本。研究・技術開発部門が少なめなのは相変わらずで、「研究者の生き生きとした活動を伝える作品」をこの部門にもっと期待する声が審査委員から出ていた。

予備審査を通過したのは、自然・くらし部門6本、研究・技術開発部門4本、教育・教養部門14本の計24本である。このすべてを12人の審査員が見て採点し、採点結果を見ながら討論と投票を重ねて受賞作品を決めた。

内閣総理大臣賞の「たづ鳴きの里～タンチョウを呼ぶ農民たちの1500日～」は、北海道・札幌近郊で遊水池をタンチョウが住める環境に作りかえる活動を始めた農民たちを追った。環境を整えればタンチョウに限らず多くの渡り鳥がやってくる。野生動物が増えれば人間との軋轢も生じる。さまざまな問題が錯綜する様子を紹介しつつ、ユーモラスな演出もあり、最終的にはタンチョウのつがいの子育てをするまでにたどり着く。野生動物と人間の関係をどう構築していくか、他地域にもお手本となる記録で、見た者に温かな満足感を与える。

文部科学大臣賞は3本。教育・教養部門の「スギメ」(3万年前の航海 徹底再現プロジェクト)は、3万年前に台湾から琉球列島に渡った私たちの祖先の航海を再現しようという国立科学博物館の7年に及ぶプロジェクトの記録映画だ。海洋ドキュメンタリーとしての魅力も備えた逸品だが、人類史上での位置づけや日本人の起源論争などの解説も加えてほしかったという声があった。

研究・技術開発部門のNHKスペシャル「新型コロナ 全論文解説～AIで迫る いま知りたいこと～」は、刻々と情勢が変わる中、放映された時期(2020年11月)に知るべきことがよく整理されていた。ただし、AIの意義やそれがどのように仕事をしたのかの説明が乏しく、肩すかしの印象も残った。

自然・くらし部門のNHKスペシャル「巨大地下空間 龍の巣に挑む」は中国奥地にある巨大洞窟を探検する国際チームを追った。映像は美しく、見たことのない風景に驚かされ、探検の難しさもよくわかったが、学術的要素が

少な過ぎて膨らみに欠けたのが残念だった。

部門優秀賞は6作品が選ばれた。「変形菌のふしぎな一生」は、イタモジホコリという変形菌の一生を蛍光顕微鏡や微分干渉顕微鏡などを駆使して色鮮やかなミクロ映像として描いた。「120秒の科学 未来につながる」は、さまざまな自然現象をシンプルな実験でおしゃれに提示した、ノンナレーションの作品。そのデザイン性と撮影技法が高く評価された。使い方次第で教育的効果も上げられよう。本作品はつくば科学万博記念財団理事長賞も受賞となった。

日本のチカラ「ヒメタツに魅せられて～再生へ向かう誇りの海～」は、新種のタツノオトシゴ「ヒメタツ」を狂言回しにして水俣湾が今いかに豊かで美しい海になっているかを伝えた意欲作。これまで水俣を取り上げたドキュメンタリーは過去のみスポットを当てていたのでないかという製作者の問題意識に共感した。

「介護崩壊～救えなかったクラスター～」は、地方局が現場に入り、何が起こったのかをその後の対策とともに伝えたもの。科学技術映像祭にふさわしいのかという点は議論になったが、視聴者が知りたいことに応じており、今回のコロナ禍の記録としても価値があるとして選ばれた。「ガリレオX 生物から学ぶ新技術 深化するバイオミメティクス」は、昔から取り組まれている「生物からヒントを得る」という研究方法の最先端を紹介し、研究者を身近に感じさせた。本作品は新技術振興渡辺記念会理事長賞も受賞となった。

NNNドキュメント'20「カネのない宇宙人信州 閉鎖危機に揺れる天文台」は、国立天文台野辺山宇宙電波観測所が見舞われている財政難と天文学者の苦悩を多くの人に伝えた貴重な作品で、見応えがあった。

特別奨励賞の「なっとう いのちの力」では、身近な納豆のミクロ映像に目を見張った。「変形菌のふしぎな一生」と同様、科学映像の王道ともいえる佳品である。科学技術館館長賞となった「かがくチップス 日本の骨格を描き出せ!～地質図作成プロジェクト～」はウェブ用に制作されたわずか5分の動画。必要十分な情報が手際よく盛り込まれ、ウェブ動画のお手本となる作品だった。なお、選には漏れたものの、「ガリレオX 死んだふりで生き残る! 擬死という不思議な対捕食者戦略」は、これまでテレビで取り上げたことのない擬死という面白い生態に迫ったところに高い評価が集まった。

たづ鳴きの里 ～タンチョウを呼ぶ農民たちの1500 日～

企画・製作：北海道テレビ放送株式会社

プロデューサー：坂本英樹／ディレクター：沼田博光／編集：上田佑樹／撮影：小山康範、石田優行
音声：渡邊大智／音響効果：佐々木堅司／MA：沢里憲壮／ナレーター：森さやか、藤村忠寿、嬉野雅道



田園を舞う2羽 北海道では水田地帯でタンチョウの姿が見られるのは稀 TV:47分

製作意図

14人の農民が“わが町にタンチョウを呼び戻す”活動を始めた。遊水地をタンチョウが住める環境に作りかえるという前例のないものだった。渡り鳥による食害への懸念、タンチョウを見ようと殺到するアマチュアカメラマン、そしてタンチョウのケガ…。様々な問題と向き合い克服しようとする農民たち。米や野菜を作る農民が、減農薬、減肥料などに取り組みながら地域の自然環境を次世代の子供たちに残そうと奮闘する取り組みを取材した。（＊たづ(鶴)はタンチョウのこと 万葉集で数多く詠まれている）

シノプシス

かつて絶滅寸前まで追い込まれた国の特別天然記念物タンチョウ。このヒナが札幌近郊の長沼町にある「遊水地」で確認された。開拓以来、空知では100年以上ぶり。人工的に作られた施設にタンチョウを呼び、繁殖させるまでに至ったのはおそらく世界でも初めてといわれる。実はこの繁殖の成功には農民たちの「ある取り組み」があった。HTBは5年間にわたり現地での取材を続け、貴重なヒナの撮影に成功。田園風景の四季折々美しい映像を交えて描く。

受賞に際して

このような素晴らしい賞をいただき御礼申し上げます。「マチにタンチョウを呼び戻す」という試みを知ったのが2015年頃。「ツルが来たらすごい話ですねえ」なんて言いながら、それでも夢を感じて町や人々の姿を撮影し始めました。それが本当にタンチョウの棲む町に変わり、幸運にもその一部始終を映像に収めることができました。稲穂の上をつがいが飛ぶ姿を見た時は、その華麗さに息が止まっていたのを覚えています。タンチョウの繁殖をめざしてかつての湿地が復元していくと、様々な希少種が集まり始め、できっこないと冷やかだった町民の反応も変わっていきました。カメラは、ツルを呼ぶ活動が、地域の環境も、そこに暮らす人々の心も豊かにしていく過程を記録したのだと思います。人の暮らしのすぐ隣に住む生き物たちに関心を寄せて、少し寄り添うだけで私たちは幸せな気持ちになれるということを、番組を通して知るきっかけになればと思います。（北海道テレビ放送(株) ディレクター 沼田博光）

NHK スペシャル 巨大地下空間 龍の巣に挑む

企画・製作：日本放送協会

語り：千葉雄大／取材撮影：門田真司／撮影：佐々木剛、前田龍太郎、大谷耕太郎、高橋剛／音声：土肥直隆、林絵海
映像技術：北山夢人／音響効果：東谷尚／編集：松浦知良／ディレクター：坂本敬、福原暢介／制作統括：中井暁彦、鈴木達也



初めて照らし出された龍の巣 ミャオティン(手前は撮影隊) TV:49分

製作意図

中国南部の世界遺産・桂林。この一帯には、“地底の桂林”ともいうべき巨大洞窟群が広がっている。10万と言われる洞窟の中で注目されるのが世界最大の地下空間「ミャオティン」だ。発見以来、あまりの巨大さゆえ、全貌に迫るのは不可能とされてきた。しかし、この空間の詳細や成り立ちに迫ることは、脈動する地球を感じ取り、新たな真実に迫ることに繋がる。レーザー測量などの最先端の技術、さらに大量の照明を持ち込んで内部を照らすなど、出来る限りを尽くすことで謎を解き明かせると考え、企画した。

シノブシス

中国貴州省に「龍の巣」と畏れられてきた場所がある。そこは、世界最大の地下空間。あまりの闇の深さゆえ、地域のミャオ族は「そこは冥界、決して入ってはならない」と語り継いできた。龍の巣の全貌とは？その誕生の秘密とは？今回、2年にわたる交渉の末、中国政府から撮影の許可を得た。日中仏の国際共同チーム29名による、50日あまりの本格調査。最新の3Dレーザー測量によって浮かび上がってきたのは、全長870m、高さ185m、容積1000万㎡、東京ドーム8つが

すっぱり入るといふ異世界の姿だった。

受賞に際して

この度は過分なるご評価をいただき、誠にありがとうございます。世界最大の地下空間のことを耳にしたのは2017年のこと。30年前に発見されて以来、いまなお内部の詳細がはっきりしていないとのことでした。あらゆる場所へのアクセスが容易になった現代にも、まだ本当の秘境が残されている。この星の知られざる世界を見たい。湧き上がる衝動に突き動かされました。しかし、調査・撮影は困難を極めました。貴州省の辛い料理に体調を崩し、ストレスfulな闇の中で幾度も足を滑らせ、心身ともに削られる日々。それでもチームは皆同じ方向を向いていました。ブラックホールのような闇を光で追い払ったときの仲間たちの表情はいまも忘れられません。あの畏怖と感動を、視聴者の皆様と少しでも共有できたのなら嬉しく思います。研究者の浦田健作氏、洞窟写真家の後藤聡氏、そして地底の大冒険にご協力下さった全てのスタッフに、改めて深く感謝申し上げます。(日本放送協会 ディレクター 坂本敬)

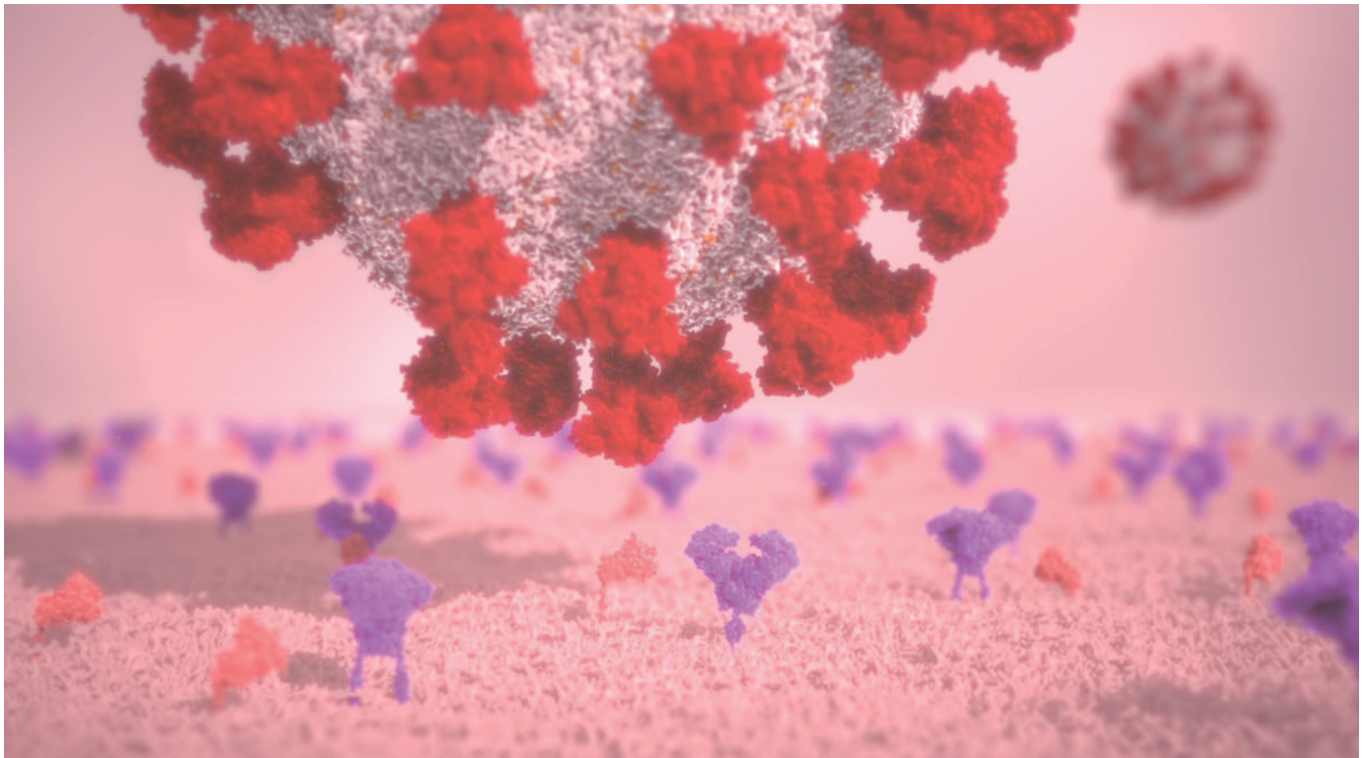
作品情報 <https://www6.nhk.or.jp/special/detail/index.html?aid=20200216>

NHKスペシャル 新型コロナ 全論文解説 ～AIで迫る いま知りたいこと～

企画・製作：日本放送協会

制作統括：浅井健博／演出：白川裕之／撮影：高岡英幸

研究者：岩崎明子(イエール大学)、マーク・リップシッチ(ハーバード大学)ほか



新型コロナウイルスは様々な臓器に感染することができる TV:54分

製作意図

パンデミックが世界を襲う中、新型コロナ関連の論文が前例のない猛烈な勢いで発表され、科学者ですら何が重要な真実かを見極めることが難しくなった。そこで、NHKは「新型コロナ全論文解説プロジェクト」を始動。膨大な科学論文を独自開発のAIで解析し、どの研究成果に注目すべきか、今後何が解決策になりそうかを客観的に読み解くという全く新しい挑戦を始めた。本番組は、感染爆発が懸念される冬場を前に、「新しい科学ジャーナリズム」を切り開く手法で最先端の科学をひもとき、今最も知るべき真実に迫った。

シノプシス

未知のウイルスはどこまで感染拡大を続けるのか。NHKが開発した“新型コロナ関連の全論文を学習した人工知能AI”を使い20万本以上の論文を解析することで、最先端の研究成果を徹底解説。「この冬、日本でも感染者が急増する?」「パンデミックはいつ収束する?」「感染拡大を食い止めるカギは?」等、今知るべき真実にとことん迫った。全論文解析から見えてきたのは、冬特有の感染リスクや脳を

襲う新型コロナの真の脅威など。そしてAIが選りすぐった世界トップ研究者たちの示すコロナ克服の道筋とは…。

受賞に際して

2020年、新型コロナウイルスの出現で世界は一変しました。世の中が科学の力をこれほど必要としたことも、かつてありませんでした。報道に携わる私たちも、どうすれば科学取材を元に、世界の救いとなり克服の道を照らすような情報をお伝えできるか、試行錯誤を続けてきました。その中で、科学者達が日々積み上げる膨大な知見を真の宝の情報にすべく、研究の全体像から真実を客観的にあぶり出そうと、「全論文AI解説」という科学ジャーナリズムの新たな手法へ挑んだのがこのプロジェクトです。受賞は、今も奮闘する取材チームにとって大きな励みとなります。この挑戦に力を添えてくださったすべての方々に深く感謝申し上げると共に、私たちがAIに読み込ませた一つ一つの研究成果を生み出した世界中の科学者、医療従事者の皆様に心からの敬意と感謝を捧げます。今後も世の中の拠り所となる情報をお伝えできるよう、取り組みを続けていきたいと思ひます。

(日本放送協会 ディレクター 白川裕之)

スギメ (3万年前の航海 徹底再現プロジェクト)

企画・製作：独立行政法人国立科学博物館／制作協力：有限会社海工房

総監修：海部陽介／監督・脚本：門田修

撮影：杉浦由典、宮澤京子、熊谷裕達、兒玉成彦、毛利立夫、妹尾一郎、西山祐樹



荒波を漕ぎ続け、黒潮を越えて与那国島にたどり着いた 映画・ビデオ:87分

製作意図

3万数千年前にはじめて日本列島へやってきた祖先たちは、アジア大陸から徒歩ではなく、海を越えて来た。彼らがどのように困難な海を渡ったかを壮大な野外実験(実験航海)によって解明しようと、人類進化学者の海部陽介の発案・指揮、国立科学博物館主催、国立台湾史前文化博物館共催で実施したのが「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」だ。本作はその6年に及ぶ映像記録で、科学者たちが航海の難しさや太古の技術を粘り強く解き明かし、知られざる祖先たちの実像に迫っていく姿を映しながら、科学的探究の面白さを伝えることを意図した。

シノプシス

台湾と琉球列島の間には世界最大級の海流・黒潮が流れる。3万年以上前、祖先たちはそこをどうやって越えたのか？想定し得る古代の舟として草の舟を作り実験航海に挑むも、黒潮に吞まれ失敗。翌年、台湾で竹いかだに挑戦したが、やはり強大な黒潮に流された。そこで最後の候補だった丸木舟を石器で製作。不安定で転覆しやすい丸木舟に手こずるも、試行錯誤を重ね、2019年7月に男女5人が台湾

を出航。眠気と疲労に耐え、2晩以上漕ぎ続けて与那国島へたどり着き、日本列島へ渡った祖先たちのドラマを再現した。

受賞に際して

本作の関係者、航海プロジェクトと共に動かした日本や台湾などの大勢の仲間たち、そしてクラウドファンディング・寄付・声援・その他さまざまなかたちで応援くださったさらに大勢の皆さまに、受賞の喜びを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。本作は、太古の祖先たちの海への挑戦の謎を解き明かそうと、現代を生きる科学者と探検家のチーム、そして博物館が実践した、挑戦の心を込めた作品です。この受賞を契機にたくさんの方々が本作に触れ、祖先たちの意外な姿、海の力強さと美しさ、そして知るべきことを知るために、真剣に、時に体当たりで挑むことの価値を見出していただければ、本望です。

(東京大学総合研究博物館 教授 海部陽介)

作品情報 <https://www.kahaku.go.jp/research/activities/special/koukai/>

変形菌のふしぎな一生

製作：株式会社ドキュメンタリーチャンネル／企画：ミュージアムパーク茨城県自然博物館

演出・撮影：藤原英史／プロデューサー：鵜沢美穂子

研究者：宮本卓也、垣内康孝



イタモジホコリの子実体 映画・ビデオ:21分

製作意図

うごめく黄色いペンキ。変形菌(真正粘菌)の変形体です。変形菌は身近に存在する生きものです。暖かい季節、長雨の後に、森の地面や倒木をのぞいてみると出会うことができます。しかし、変形体は普通に肉眼で見ただけでは、動いているように見えません。映像として撮影し、早送りで再生することで、アメーバ状の黄色の塊が、リズムカルに這いまわる…、その奇妙な世界を垣間見ることができます。今回は、私自身、いつの間にかとりつかれてしまった変形菌の不思議な魅力を感じてもらえるように製作しました。

シノプシス

本作品では、イタモジホコリという名前の変形菌の胞子から変形体が生まれ、バクテリアや菌類の菌糸を食べて成長し、ダイナミックに子実体へと変身を遂げ、再び胞子が作られるまでの一生を紹介しています。蛍光顕微鏡で撮影した変形菌の原形質流動や、微分干渉顕微鏡による胞子からアメーバ状細胞が誕生する瞬間、アメーバ状細胞の分裂、べん毛細胞が泳ぐところなど、これまで、ほとんど映像化されたことのない美しいシーンが満載。変形菌の一生を垣間見る

ことで、その不思議で美しい世界に魅了されることでしょう。

受賞に際して

変形菌という地味な存在を題材とした映像作品に、賞を頂けることをうれしく思い、関係者の皆様に感謝申し上げます。私が最初に変形菌を顕微鏡で観察してから十年が経ちます。撮影を始める前は、変形菌に、それほど興味があったわけではありませんでしたが、顕微鏡で胞子が発芽する様子を撮影した時に、植物でもない、動物でもない、キノコなどの菌類とも異なることを実感し、その奥深さに惹かれるようになりました。動きや変化を読むのが難しい変形菌の撮影は困難を極め、変形体から子実体への変化など、その状況に出会うことができず、撮影をあきらめたこともありましたが、しかし、撮影を止めるたび、そんな時に限ってずっと狙っていた変化が起こるといったことを経験し、その原因を徹底的に考えることを繰り返しながら撮影を進めました。まだ、頭でイメージしながらも撮影できていないシーンもあるので、今後も、変形菌の撮影を続けていきたいです。

(株)ドキュメンタリーチャンネル ディレクター 藤原英史)

作品情報 <http://www.documentary-ch.com/dvd/dvd-henkeikin.html>

介護崩壊 ～救えなかったクラスター～

企画・製作：北海道テレビ放送株式会社

プロデューサー：阿久津友紀／ディレクター：北村玲奈／編集：菊地珠未
撮影：図司祐介／音響効果：前村あづさ／MA：沢里憲壮／ナレーター：内田有紀



病院に運ばれる入所者 TV:25分

製作意図

札幌市の高齢者施設、茨戸アカシアハイツ。4月下旬に新型コロナウイルス最初の感染者が出てから、90人あまりの入所者のおよそ7割が感染。道内最大の集団感染＝クラスターとなり（当時）、短期間に入所者17人が亡くなった。市などがまとめた報告書を元に独自取材。そこで見えてきたのは、放置されてきた介護業界の“ひずみ”と、臨時支援の在り方、得られた知見の共有、余剰人員の戦力化などの課題だった。あのとき、何をすべきだったのか。感染拡大が止まらない今、高齢者施設を守るための一助となれるよう製作した。

シノプシス

北海道に第2波が押し寄せるなか、当時道内最大の新型コロナウイルス感染症のクラスター（感染者集団）となった札幌市の介護老人保健施設。取材班に職員からメールが届く「ひどいことになってる…」。縦割りが邪魔をして後手に回る保健所の対応。支援も乏しく職員は感染や離職で2割ほどに。介護士は毎日泊まり込み、看護師はまったくのゼロという状態で、17人もの入所者が亡くなった。救える方法は無かったのか。札幌市と施設の報告書、独自取材を

基に検証し、「介護崩壊」を起こさない為の教訓を探った。

受賞に際して

新型コロナウイルス感染の第2波で起きた当時の最大のクラスター。冬に更なる拡大が予想されていたことから、できるだけ早いタイミングで検証することで多くの人が備えられるのではないかと思います制作しました。コロナ禍で起きたひとつの介護老人保健施設の事例から、放置されてきた介護制度のひずみ、固定化された縦割り行政、自治体の壁が阻む医療支援体制など、数々の問題点が見えてきました。連携の枠組みが整うまでのほんの数日の遅れが、感染の爆発的な広がりとなり、大きな犠牲を生んだという事実。現場で全力を尽くして対応に当たった方々も、思わぬ形で家族の突然の死を知った遺族の方々も、心の傷は癒えぬままです。いまでも最前線で戦っておられる医療・介護従事者のみなさまに感謝するとともに、今後、この受賞によりさらに多くの方々に御覧いただくことで、浮き彫りになった様々な課題が解決に向かうことを切に祈ります。

（北海道テレビ放送㈱ プロデューサー 阿久津友紀、ディレクター 北村玲奈）

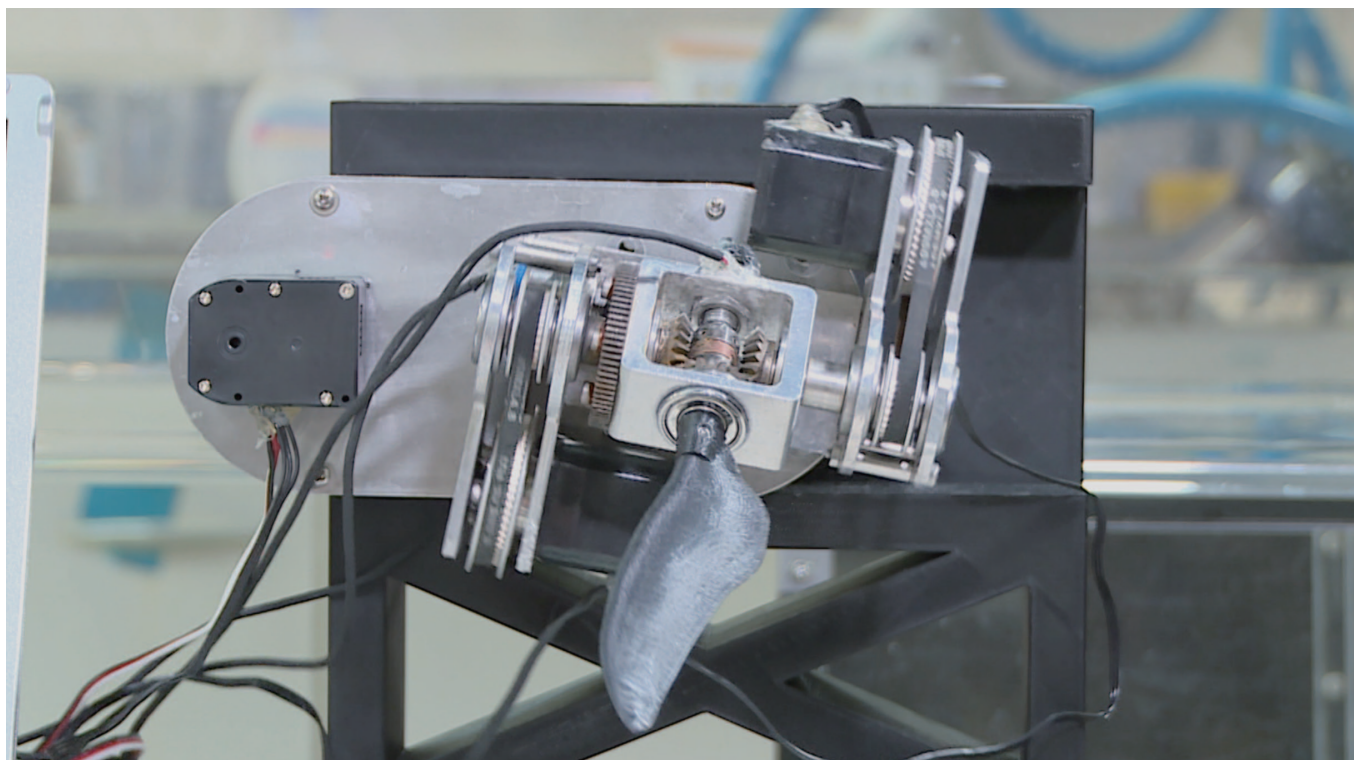
作品情報 <https://www.htb.co.jp/telemen/kaigo/>

ガリレオX
生物から学ぶ新技術 深化するバイオミメティクス

企画・製作：ワック株式会社

製作：太田洋昭／脚本・演出：森田昌也／助手：岩木達哉／撮影：松本直幸

研究者：田中博人(東京工業大学)、星光(宇宙航空研究開発機構)、内藤昌信(物質・材料研究機構)、中田敏是(千葉大学)



ペンギンの泳ぎ方を模倣した推進装置 TV:25分

製作意図

500年以上前にレオナルド・ダ・ヴィンチは鳥を観察し、空を飛ぶ装置を考えたと言われています。その400年後、ライト兄弟が飛行機を完成させました。このような新しい技術を開発するために生物からヒントを得るという方法は古来より用いられてきました。そして近年では、電子顕微鏡やハイスピードカメラなどで、生物の特長をより詳しく観察できるようになってきたそうです。研究者の視点からは、身近な生物は何億年という進化の中で最適解を導き出した“お手本”となる存在だということを伝えたいと考えました。

シノプシス

地球には水中で生活する生物や空を自在に飛びまわる生物など、私たち人間には到底真似できない機能や形状を持つ生物が数多く存在している。そのような生物の優れた特徴を学び・模倣することで技術へと応用するのが「バイオミメティクス(生物模倣)」という研究分野だ。バイオミメティクスは、これまでに工業や医療を始め、身近な様々な場所に活用されてきた。そして現在、観測技術と

製造技術が向上したことで、「ペンギン」「マンボウ」「ハリセンボン」「蚊」から新たな技術が開発されようとしていた。

受賞に際して

この度は栄えある賞をいただき、大変うれしく思います。取材した研究者4名、どなたも「近年はバイオミメティクスの研究を行うのに適した環境が整ってきた」と話されていました。特に工学分野では、3Dプリンターが普及したことで実験を行うまでのスピードが大きく加速したそうです。ですが、取材を行ったのは2020年の夏。大学では上半期が終了する時期でしたが、新型コロナウイルスの影響で多くの学生は登校できず、学会発表もオンラインで行われていました。取材中の雑談で、「バイオミメティクスの研究では、生物を観察することと同じくらい他の研究者と意見交換をすることが大切で、ちょっとした会話が研究を進める閃きにつながることも多い。その機会が学生から失われることが残念だ」と話されていたのが印象的でした。どのような時でも研究に取り組む研究者の姿は魅力的です。今後もその姿と成果を伝える作品を作っていきたいと思います。

(ワック(株) ディレクター 森田昌也)

作品情報 http://web-wac.co.jp/program/galileo_x/gx20200823

日本のチカラ ヒメタツに魅せられて ～再生へ向かう誇りの海～

製作：株式会社 熊本放送／企画・委託：公益財団法人 民間放送教育協会

製作：雪竹弘一、北山周平／演出：中村壮太郎／撮影：岩永雅人



ヒメタツのオスによる出産 TV:26分

製作意図

水俣の海の歴史を語る上で避けて通れないのが公害で苦しんできた「過去」です。水俣の海を題材にしたドキュメンタリーは数多くありますが「過去」にのみスポットが当たっているものが多い様な気がします。では「現在」や「未来」はどうなっているのか…。森下さんからヒメタツの繁殖シーンを見せていただいた際、このシーンを通してそれを伝えることができるのでは、と思ったのが企画のきっかけです。番組では海中の映像をたくさん盛り込みました。少しでも水俣の海に対するイメージにプラスになれば幸いです。

シノプシス

熊本県水俣市に広がる「不知火海」。かつて公害により生態系を破壊された歴史を持つ海だ。今、この海に全国のダイバーが潜りにきている。きっかけを作ったのは水俣在住のダイバー森下誠さん。水俣の海が持つマイナスイメージを払拭するため、ある珍しい生き物の生態を通して魅力を発信している。その生き物は国内で116年ぶりに確認された新種のタツノオトシゴ「ヒメタツ」。繁殖シーズンになると神秘的な生命誕生の瞬間を見ることができる。

「死の海」とまで呼ばれた水俣の海で繰り広げられる生命の営みに迫った。

受賞に際して

この度は大変栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。水俣の海の魅力を、番組を通してお伝えすることができ嬉しく思っております。今回取材を進めていく上でヒメタツの存在以上に心を動かされたのが、主人公森下さんの故郷水俣に対する思いです。番組で紹介した通り、森下さんは水俣の海にほぼ「毎日」潜っています。しかもお客さんが来る、来ないに関わらず…。毎日潜ってヒメタツを観察するうちに、この個体はあと何日で出産を迎えるか…といった情報が正確に分かってくるようになったそうです。そのおかげもあって森下さんの案内で潜るお客さんは、ヒメタツの繁殖シーンに高い確率で出会うことができます。水俣の海のイメージを変えるため、毎日海に潜る森下さんの姿はヒメタツ以上に水俣の救世主なのかもしれない、と取材を通して感じました。今後も再生へと向かう水俣の海、そして森下さんの姿を追いつけたと思います。

(株RKKメディアプランニング ディレクター 中村壮太郎)

作品情報 https://www.minkyo.or.jp/program/nippon_no_chikara/242

120 秒の科学 未来につながる

製作：テレビ大阪株式会社／企画・委託：株式会社ジェイワークス

製作：田中洋行(テレビ大阪)、梅景泰利(ジェイワークス)／演出：川崎雅貴／撮影：松宮周史(EYEZEN)

研究者：滝川洋二(教育学博士、東京大学非常勤講師、NPO 法人ガリレオ工房理事長)



比重 TV: 合計32分(2分×16テーマの実験)

製作意図

この番組は、科学現象について、レンズを通して見える世界をスタイリッシュに120秒で見せる番組です。我々の身の回りにあるもの、我々の住む世界で使われているものすべてに科学が潜んでいます。そこにある科学を、レンズを通してその現象を見せることで、ささやかな気づきを提供します。ほーっと見ているだけでも楽しめる、でも見終わった後に興味や疑問が膨らんで自分で調べたくなる、そんな心の自分の生活のささやかな変化を提供します。

シノプシス

科学の目で眺めてみると身の回りにはたくさんの“なぜ?”が潜んでいます。“なぜ?”が導く発見や驚き。“なぜ?”には、今まで当たり前だと思っていた世界を変え、もっと楽しい未来につながる力がある。この番組では、科学の面白さがぎゅっと詰まった120秒の実験映像を通して、たくさんの“なぜ?”をお届けします。

受賞に際して

この度は名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。番組スタッフを代表して、ご関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。科学の目で眺めてみると、身の回りにはたくさんの“なぜ?”が潜んでいます。“なぜ?”が導く発見や驚きなど、“なぜ?”には、今まで当たり前だと思っていた世界を変え、もっと楽しい未来につながる力があります。好奇心から広がる世界は無限です。そうか、そういうことだったのか!と、点と点が線になる瞬間のよろこびの連続が、世界の不思議を解き明かし、環境や地域の問題を解決する大切な糧となることを期待しています。

(テレビ大阪(株) 番組プロデューサー 田中洋行)

作品情報 https://www.tv-osaka.co.jp/120sec_science/archives.html

NNNドキュメント'20 カネのない宇宙人 信州 閉鎖危機に揺れる天文台

企画・製作：株式会社テレビ信州

製作：株式会社テレビ信州／演出：高柳峻／撮影：中村憲一



野辺山宇宙電波観測所のシンボル「45m電波望遠鏡」 TV:24分

製作意図

近年、日本のノーベル賞科学者たちが、逼迫する基礎研究の状況に警鐘を鳴らしている。ただし私たちは、スピーチで知るだけで、その内実は実感しにくい。一体現場では何が起きているのか、それを知るために国立天文台野辺山観測所で密着取材を行った。「役に立つもの」「利益になるもの」を求める果てに残るものはなにか？取材する中で見えてきたのは、カネと理念のはざまで奮闘する天文学者の姿だった。

シノプシス

「人類史上初ブラックホールの撮影に成功」はやぶさ2着陸成功日本の宇宙科学は、世界で輝かしい実績をあげている。しかし、この栄光の裏側で研究の現場は苦境に立たされている。長野県・八ヶ岳のふもとにある国立天文台・野辺山宇宙電波観測所が今、財政難で閉鎖の危機に陥っているのだ。「経済的利益」を重視する国の政策によって、観測所の資金が大幅に減ったのが原因だ。存続をかけて奮闘する天文学者を1年間追った。

受賞に際して

このたびは名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。取材中、野辺山観測所の責任者・立松健一所長とこんなやりとりがありました。「宇宙人っていると思いますか？」「もういますよ」「え、どちらに？」「あなたの目の前に」。一見荒唐無稽な会話ですが、これは観測所に代々受け継がれているものだそうで、宇宙に生命体が存在する可能性はゼロではないという意味だけではなく、本来自分自身も宇宙人のように未知の存在で、社会で一緒に暮らす他者も曖昧な存在である。そんな未知の他者を「分からない」で切り捨てずに知りたいと追い求めることで、「豊かな人間宇宙」が見えてくる、そんな深い意味が含まれています。私とは違うモノ。異質のモノ。相容れないモノ。それらとどう対峙するか。不寛容が台頭している今、「宇宙人」への接し方が重要だと感じています。番組にご協力頂きました皆様に御礼を申し上げます。

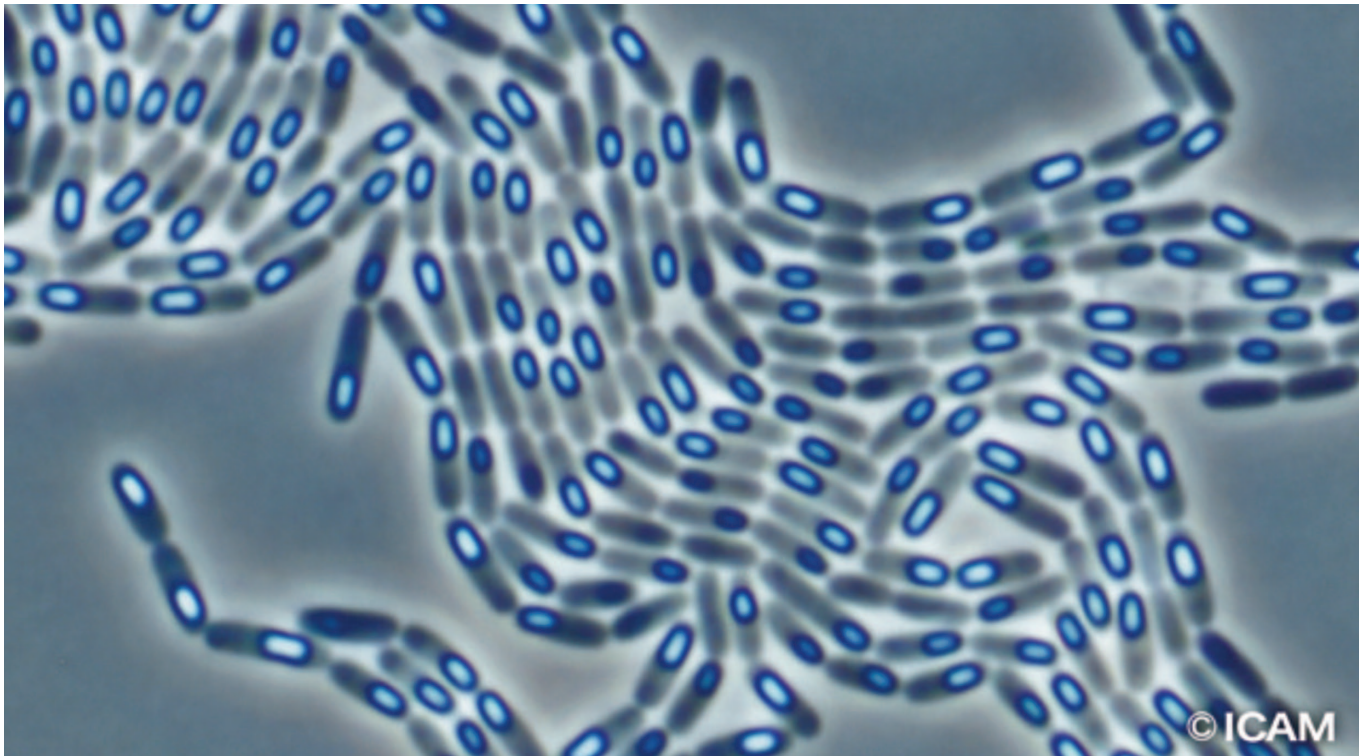
(株)テレビ信州 高柳峻

作品情報 <https://www.tsb.jp/bangumi/ch4/2019/11/post-1165>

なっとう いのちの力

製作：株式会社アイカム／企画・委託：全国納豆協同組合連合会

製作：武田純一郎、長谷川高久／脚本・演出：川村智子／撮影：武田温、林正浩
研究：梅原温／音楽：宮川進



芽胞を作り生き延びる納豆菌 インターネット等で配信されている動画:8分

製作意図

一般に、広く感じられている納豆の健康効果ですが、食中毒を起こすような有害菌を抑制したり、乳酸菌など有用菌の成長を助けたりする、納豆菌の健康効果を、一般の方々により実感してもらえ、映像化をめざしました。身近だけどあまり知られていない、納豆菌の生命力自体を描くことで、縄文時代以来の日本の食文化として「納豆」の力強い健康イメージを印象付けられたのではないかと思います。

シノプシス

大豆と納豆菌、いのちといのちが出会った時、納豆が生まれる。納豆をかき混ぜると出てくるネバネバ。顕微鏡で見ると、休眠状態の芽胞が見える。適度な環境になると、発芽して、納豆菌は分裂もせずに伸び広がる。納豆菌が描き出すふしぎな文様。その素早い成長には、増殖の速い大腸菌も及ばない。環境が変われば、再び芽胞化する、環境変化に対応して生き延びる納豆菌のたくましさ。過酸化水素のある環境で伸び悩む乳酸菌も納豆菌の培養エキスで元気を取り戻す。はるかな昔から、納豆は日本人の健康を支えてきた。

受賞に際して

納豆菌は、さまざまな植物に共生している枯草菌の仲間です。世界各地にも植物の葉で包み豆や穀物を発酵された食品はあるようですが、縄文時代、大陸から伝わった大豆と稲作、稲わらの納豆菌が出会った時、日本の納豆は生まれたのでしょうか。納豆工場に雑菌は生えない、ということを知ったことがあります。それほど、強い菌なのでしょう。私達も長年、さまざまな細菌を撮影してきましたが、納豆菌の撮影は初めてで、その奇想天外な増え方にはびっくりしました。しかし、なんとも魅力的な広がり方をするものです。新型コロナウイルスの感染拡大で、免疫力を高めたいという人々の間で、発酵食品の中でも、一躍人気者になった健康食品、納豆。受賞を機に、より多くの方々に、顕微鏡微速度撮影が捉えた納豆菌の生き様をご覧いただき、いのちの豊かなつながりを感じ、味わっていただければ幸いです。 (株)アイカム 代表取締役社長 川村智子)

作品情報 <http://www.icam.co.jp/ja/movie/2020v01.html>

かがくチップス 日本の骨格を描き出せ！ ～地質図作成プロジェクト～

企画・製作：国立研究開発法人産業技術総合研究所

製作：小林隆司、鈴木康仁／脚本：助川友之／演出：小林隆司

撮影：小林隆司、鈴木康仁、清水善夫／研究者：野田篤



20万分の1の地質図 インターネット等で配信されている動画:5分

製作意図

本シリーズは社会課題解決に向けて研究開発に取り組む産総研の最新成果を広く市民に届け、公的研究機関としての活動内容の理解促進を図ることが目的である。特に、次世代を担う若者に関心を抱いてもらい、科学技術の発展に資することを目的に、YouTubeチャンネルで広く公開した。科学を伝える際にはとにかく論理的、説明的になりがちだが、発見の感動、熱意を持って取り組む研究者の姿勢を丁寧に描き、視聴者の気持ちを動かすことができるよう、ワクワク感を重視する動画製作を目指している。

シノプシス

今から135年前、国の施策によって始まった壮大なプロジェクトが現在も続いている。国家を作る大地がどのような岩石で出来ているのかを詳細に調査する、言わば日本の骨格図を描き出す一大計画(地質図作成)である。土地を形作る地層や岩石の種類、年代が描かれており、地下資源の調査や、災害予測の元になる国土の基本情報を、約20キロメートル四方の地質図として完成させるには、研究者の地道な調査活動が欠かせない。詳細な国土の基本情報に貢献する

ため、今なお険しい調査を続け地質図を作り続けている。

受賞に際して

この度は、栄誉ある賞に選んでいただき誠にありがとうございます。また、本作品をご評価いただき、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。科学技術が社会に寄与している今日、科学技術のありがたさや素晴らしさ、そして期待などを多くの市民に理解していただくため、様々な広報活動が行われています。弊所でも“人の心に伝わる”新たな映像制作に取り組みました。その第一作が評価いただいた作品です。「地質図」は、市民の方々には、馴染みの少ないものです。長い歳月を経ながら忍耐強く研究を積み重ねていく歴代の研究者たちの貢献とその成果が伝わるように制作しました。青少年や学生、そして多くのみなさまに、科学技術の世界に興味を持っていただきたいと願っております。

(産業総合技術研究所 広報部 助川友之)

作品情報 <https://www.youtube.com/watch?v=b16iqokbFgE>

第62回 科学技術映像祭参加作品一覧

No.	種別	作品名	分数	製作機関(企画製作機関)	企画・委託機関
自然・暮らし部門(18本)					
1	インターネット等で配信されている動画	教えて！新型コロナウイルス	9	株式会社日テレアックスオン	国立研究開発法人理化学研究所
2	インターネット等で配信されている動画	手作りマスク素材を電子顕微鏡&レーザーで コロナウイルス飛沫を可視化してみた結果！	18	株式会社 GENKI LABO	
3	展示映像	「ようこそ蜂天国へ」	11	ネイチャーシネプロ有限公司	蜂天国
4	映画 ビデオ	清瀬と結核	14	FLP ジャーナリズムプログラム 松野ゼミ	
5	映画 ビデオ	自然災害への備え いのちを守る7か条	20	株式会社映学社	
6	映画 ビデオ	職場の防火管理、重要です！	24	株式会社映学社	
7	映画 ビデオ	全員参加の自主防災 災害に強いまちづくり	23	株式会社映学社	
8	映画 ビデオ	変形菌のふしぎな一生	21	株式会社 ドキュメンタリーチャンネル	ミュージアムパーク茨城県自然 博物館
9	映画 ビデオ	夢を奪ったハンドル 飲酒・居眠り・ながら運転の悲劇	26	株式会社映学社	
10	映画 ビデオ	より一歩踏み込んだ新型コロナウイルス 感染予防行動へ	16	東映株式会社 教育映像部	
11	TV	映像'20 コロナと薬 ～ワクチン開発の期待と不安～	50	株式会社毎日放送	
12	TV	NHK スペシャル 巨大地下空間 龍の巣に挑む	49	日本放送協会	
13	TV	NBS フォーカス信州 クマとタマ 軽井沢・ベアドッグの取り組み	50	株式会社長野放送	
14	TV	おっばい2つとってみた ～46歳両側乳がん～	46	北海道テレビ放送株式会社	
15	TV	介護崩壊 ～救えなかったクラスター～	25	北海道テレビ放送株式会社	
16	TV	食が変われば地球が変わる	71	RKB 毎日放送株式会社	
17	TV	たづ鳴きの里 ～タンチョウを呼ぶ農民たちの1500日～	47	北海道テレビ放送株式会社	
18	その他	屋久島 自然環境編 植生の垂直分布	18	株式会社南日本放送	屋久島環境文化財団

No.	種別	作品名	分数	製作機関(企画製作機関)	企画・委託機関
研究・技術開発部門(8本)					
19	インターネット等で配信されている動画	かがくチップス 日本の骨格を描き出せ！ ～地質図作成プロジェクト～	5	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	
20	TV	NHKスペシャル 新型コロナ 全論文解説 ～AIで迫る いま知りたいこと～	54	日本放送協会	
21	TV	ガリレオX “さび研究” 最前線 インフラ構造物を守る最新研究	25	ワック株式会社	
22	TV	ガリレオX 生物から学ぶ新技術 深化するバイオミメティクス	25	ワック株式会社	
23	TV	ザ・リーダー新春SP 本庶佑京都大学特別教授	50	株式会社毎日放送	
24	TV	情熱大陸 感染症医 忽那賢志	25	株式会社毎日放送	
25	TV	魔法の素材が舞う ～プラスチック大気汚染	24	RKB毎日放送株式会社	
26	その他	ドローンによる池塘および周辺環境調査映像 の紹介 第4次尾瀬総合学術調査	10	株式会社ドキュメンタリーチャンネル	国立研究開発法人国立環境研究所
教育・教養部門(39本)					
27	インターネット等で配信されている動画	茨城県自然博物館第77回企画展「さくら展」 解説動画	13	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	
28	インターネット等で配信されている動画	おうちで天文科学館 総集編	77	株式会社明石ケーブルテレビ	明石市立天文科学館
29	インターネット等で配信されている動画	大型コロコロ装置	17	佐賀県立宇宙科学館	
30	インターネット等で配信されている動画	おかざえボンド 生理研より愛をこめて	13	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 自然科学研究機構	
31	インターネット等で配信されている動画	肝付町VRSスペースミュージアム 光の速さ体験(9分)、宇宙遊泳(6分40秒)、 宇宙の広さ(9分30分)	25	株式会社チェンジ	肝付町役場
32	インターネット等で配信されている動画	世界一分かりやすい新型コロナウイルス攻略 法【子どもから大人まで分かる】	9	株式会社 GENKI LABO	
33	インターネット等で配信されている動画	台風の速さで雑巾を窓ガラスに飛ばした結果 …養生テープを窓ガラスに意味あるの？ 【防災の科学】	8	株式会社 GENKI LABO	
34	インターネット等で配信されている動画	大量の金の指輪を王水に溶かして純金の再生 ボタン作成！	13	株式会社 GENKI LABO	
35	インターネット等で配信されている動画	時の記念日100周年オンラインイベント 全国天文台子午線リレー (ディレクターズカット版)	89	株式会社明石ケーブルテレビ	明石市立天文科学館
36	インターネット等で配信されている動画	なっとう いのちの力	8	株式会社アイカム	全国納豆協同組合連合会

No.	種別	作品名	分数	製作機関(企画製作機関)	企画・委託機関
教育・教養部門(39本)					
37	インターネット等で配信されている動画	肉用牛生産の現場 命を育み、つなぐ仕事	58	株式会社日テレアックスオン	公益社団法人中央畜産会
38	インターネット等で配信されている動画	ビーコロ装置 ビーコロダンジョン	2	佐賀県立宇宙科学館	
39	インターネット等で配信されている動画	おうちでやってみよう！おもしろサイエンス みんなで一緒に！恐竜体操	2	愛媛県総合科学博物館	
40	インターネット等で配信されている動画	おうちでやってみよう！おもしろサイエンス やってみよう！おもしろサイエンス ベスト3	3	愛媛県総合科学博物館	
41	インターネット等で配信されている動画	渡辺館長の展示紹介	26	佐賀県立宇宙科学館	
42	展示映像	はまぎん こども宇宙科学館 3階惑星ジム 実証実験	4	はまぎん こども宇宙科学館 (横浜こども科学館)	
43	展示映像	不思議な恐竜：フクイベナートル	15	株式会社FBC アドサービス	福井県立恐竜博物館
44	展示映像	ハッ場ダム建設の記録 6年の軌跡	15	株式会社モンタージュ	国土交通省 関東地方整備局 利根川ダム統合管理事務所 (ハッ場ダム工事事務所)
45	映画 ビデオ	映像で学ぶ 幼児の発達と生活シリーズ 第1巻 幼児の心身の発達	24	東映株式会社 教育映像部	
46	映画 ビデオ	映像で学ぶ 幼児の発達と生活シリーズ 第2巻 幼児の生活の特徴と家族の役割	23	東映株式会社 教育映像部	
47	映画 ビデオ	映像で学ぶ 幼児の発達と生活シリーズ 第3巻 幼児と遊び	20	東映株式会社 教育映像部	
48	映画 ビデオ	笹色の紅 Grünen Metallglanz Sasairo-beni makeup in pre-modan Japan.	11	東京工芸大学	
49	映画 ビデオ	スギメ (3万年前の航海 徹底再現プロジェクト)	87	独立行政法人国立科学博物館	
50	映画 ビデオ	ヒーリングアース	25	株式会社NHK エデュケーショナル	株式会社デジタル・アンド・ デザイン・ピクチャーズ
51	映画 ビデオ	フクロウ人形の秘密	30	株式会社映学社	
52	TV	NNNドキュメント'20 カネのない宇宙人 信州 閉鎖危機に揺れる天文台	24	株式会社テレビ信州	
53	TV	ガリレオX 死んだふりで生き残る！ 擬死という不思議な対捕食者戦略	25	ワック株式会社	
54	TV	ガリレオX 地質年代チバニアン誕生 その地層に刻まれた地磁気逆転の謎	25	ワック株式会社	
55	TV	ガリレオX 天下分け目のモグラ合戦 然れば土竜とは如何な生き物か	26	ワック株式会社	

No.	種別	作品名	分数	製作機関(企画製作機関)	企画・委託機関
教育・教養部門(39本)					
56	TV	小学館の図鑑NEO 新版 科学の実験 あそび・工作・手品	85	株式会社小学館	株式会社小学館集英社プロダクション
57	TV	チャンネル4 ハイスクールワイナリー	54	株式会社テレビ信州	株式会社マウント
58	TV	日本のチカラ 好きを形にする仕事 ～フィギュアで街を元気に～	26	株式会社山陰放送	公益財団法人 民間放送教育協会
59	TV	日本のチカラ ヒメタツに魅せられて ～再生へ向かう誇りの海～	26	株式会社 熊本放送	公益財団法人 民間放送教育協会
60	TV	日本のチカラ 毎日がいいね！田中達也のニューライフ	26	株式会社南日本放送	公益財団法人 民間放送教育協会
61	TV	日本のチカラ みんなの秘密基地 ～ツリーハウスで遊ぼう～	26	北陸放送株式会社	公益財団法人 民間放送教育協会
62	TV	日本のチカラ みんなのロケット ～信州発！若きエンジニアたちの夢～	26	信越放送株式会社	公益財団法人 民間放送教育協会
63	TV	120秒の科学 未来につながる(2分×16本)	32	テレビ大阪株式会社	株式会社ジェイワークス
64	TV	ヒューマニエンス 40億年のたくらみ “自由な意志” それは幻想なのか？	59	株式会社NHKエンタープライズ	日本放送協会
65	TV	マサックのスーパー実験室	53	青森朝日放送株式会社	日本原燃株式会社

第62回 科学技術映像祭 開催要綱

目 的

科学技術を正確にわかりやすく伝える優れた映像を選奨することにより、科学技術への関心を喚起するとともにその普及と向上をはかり、社会一般の科学技術教養の向上に資することを目的とする。

行 事

- (1)優秀作品の選定
- (2)入選作品の表彰(科学技術週間行事)
- (3)入選作品の発表

主 催

- (公財)日本科学技術振興財団
- (公社)映像文化製作者連盟
- (公財)つくば科学万博記念財団
- (一財)新技術振興渡辺記念会

運 営

- 第62回科学技術映像祭運営委員会
- (1)運営委員会は本行事に関するすべてのことを決定する。
- (2)運営委員会は委員7名をもって構成する。

後援(予定)

- 文部科学省、日本放送協会、(一社)日本民間放送連盟
- (一社)日本新聞協会、(一財)日本視聴覚教育協会
- (一財)経済広報センター
- 国立研究開発法人科学技術振興機構、全国科学館連携協議会
- (公財)民間放送教育協会

募集期間

2020年12月1日(火)～2021年1月25日(月)(必着)

応募資格

日本所在の製作者、企画者(スポンサー)、テレビ局、学術研究機関・教育機関および個人が製作した作品。日本に所在を持たない場合でも、作品が日本国内で公開(放送、上映または販売)された作品は参加できる。

募集要件

- (1)2020年1月1日から2021年1月25日までに完成した作品で本映像祭へ初出品であること。
- (2)参加作品の上映時間は原則として90分以内
また、短編の作品も参加を歓迎する。
- (3)一応募者からの総参加作品数は5本までとし、総上映時間は180分を限度とする。
- (4)メディア
a.映画・ビデオ b.TV番組 c.インターネット等で配信・配布されている動画(YouTubeなどのSNSやHP等) d.博物館やイベント等における展示映像
注1:ヘッドマウントディスプレイ等特殊な機器を使わないと再生できないVRコンテンツ等は対象外とする。
注2:メディアについて応募に該当するかわからない場合は事務局に問い合わせること。

募集部門

参加作品は科学技術に関する映像で、次の部門のいずれかに参加できる。

- (1)自然・くらし部門
 - a.自然、環境、環境、生物生態記録
 - b.くらしの脅威(たとえば、防災、安全などに関するもの)や疾病の治療・予防に関する作品で、研究・技術開発部門に該当しないもの
- (2)研究・技術開発部門
 - a.最新の科学技術・産業技術および研究開発などを中心に、その現状と将来などの応用面を紹介した作品(たとえば、エネルギー、IT、AI、ナノテクノロジー・材料、機械、バイオテクノロジー、環境、農林水産分野などに関するもの)
 - b.基礎医学、臨床医学、歯学、薬学、保健の研究を紹介した作品
 - c.基礎研究および学術研究を紹介した作品(科学者・技術者が研究を進める手段として製作した映像や研究業績発表のために用いた映像を含める)
- (3)教育・教養部門
 - a.主に小学生、中学生、高校生および社会一般を対象として製作された作品で、物理、化学、地学、生物、技術・家庭(ものづくり教育を含む)など科学教育に関係する作品
 - b.科学技術の教養に関する作品。たとえば、技術史、考古学、人類学、評伝などに関するものを含む
 - c.(1)(2)の各部門に該当しない作品

賞

- 内閣総理大臣賞(予定) 1作品(最優秀作品)
賞状および副賞(カップ)
- 文部科学大臣賞(予定) 3作品(部門各1作品)
賞状および副賞(楯)
- 部門優秀賞 6作品 賞状
つくば科学万博記念財団理事長賞 1作品 賞状および副賞(楯)
- 新技術振興渡辺記念会理事長賞 1作品 賞状および副賞(楯)
- 科学技術館館長賞 1作品 賞状および副賞(楯)
- 特別奨励賞 賞状
科学技術映像に関する新たな取り組みや、科学技術映像の活用による社会への貢献が顕著な作品に対し、特別奨励賞を贈ることができる。
- 賞は企画者(含むスポンサー)および製作者それぞれに贈る。

審 査

- (1)二段階審査(一次審査および本審査)
- (2)審査委員
運営委員会から委嘱された審査委員10名程度をもって審査委員会を構成する。
審査委員会には運営委員会より委嘱された委員長1名、副委員長2名以内を置く。
- (3)審査方法 審査委員会で決定する。
- 審査期間 2021年 2月
- 発 表 2021年 3月上旬(予定)
(プレスリリースおよび科学技術映像祭HP上で発表)
- 表 彰 式 2021年 4月16日(金) 科学技術館サイエンスホール
- 上 映 会 2021年 4月～2022年 3月
全国の科学館等にて受賞作品を上映

申込方法

- (1)科学技術映像祭公式WEBサイト URL <http://ppd.jsf.or.jp/filmfest/>よりWEB申込の上、プリントした申込書に捺印の上、必要書類および作品を下記宛まで提出してください。WEB申込ができない場合は下記までご相談ください。
- (2)出品作品の提出形態: DVDプレーヤー、Blu-rayプレーヤーで再生できる形態か、パソコンで再生できる汎用的な動画ファイル形式(MP4等)の動画ファイルを、DVDディスクやBlu-rayディスク、USBメモリ等の媒体に入れて提出してください。その他の形態で提出ご希望の場合は事務局にご相談下さい。
- (3)提出書類等
 - 申込書 1通
 - 出品作品
 - パンフレット等の印刷物 5部(あれば)出品作品は事務局より後日返却いたします。(送料:事務局負担)
- (4)申込締切
2021年1月25日(月)必着

<書類・作品提出先>

(公社)映像文化製作者連盟 「科学技術映像祭」係
〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町17-18
藤和 日本橋小網町ビル7F
TEL.03-3662-0236 FAX.03-3662-0238

注意事項

- (1)参加にあたっては、必要な著作権処理を行なってください。万一、第三者から権利侵害、損害賠償などの主張がなされたときは、参加者自らの責任と負担で対処するものとし、主催者は一切の責任を負いません。
- (2)外国語版を出品するときは、日本語のスク립トを添付してください。
- (3)参加作品はストーリーがある動画映像作品とします。TV放送用途などでCM等が入った作品については、CM等をカットして一続きとしてください。
- (4)科学技術映像祭の入選作品を広く活用する観点から、広報活動や全国の科学館等での入選作品発表上映会や、NHK等での放送に協力してください。受賞作品は、Webサイト、新聞報道等に掲載する広報資料用に作品の写真データの提供と発表上映会用にDVD、Blu-ray等のコピー、ファイル(MP4等)の提供をお願いします。

【科学技術映像祭 事務局】

(公財)日本科学技術振興財団 人財育成部
〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2番1号
TEL:03-3212-8487 FAX:03-3212-0014 E-mail: filmfest@jsf.or.jp

運営委員 ◎委員長

- ◎永野 博 (公社)日本工学アカデミー 顧問
板倉 康洋 文部科学省科学技術・学術政策局 局長
若林 光次 (公財)日本科学技術振興財団 理事
中原 徹 (公財)つくば科学万博記念財団 理事長
善方 隆 (公社)映像文化製作者連盟 会長
三浦 啓一 (公社)映像文化製作者連盟 事務局長
佐藤 征夫 (一財)新技術振興渡辺記念会 理事

審査委員 ◎委員長 ○副委員長

- ◎小出 重幸 日本科学技術ジャーナリスト会議 理事
○丸山 剛司 中央大学理工学部 特任教授
○高橋真理子 朝日新聞 科学コーディネーター
岡田 秀則 独立行政法人国立美術館 国立映画アーカイブ 主任研究員
木村 真一 東京理科大学 理工学部教授
蔵 並 真一 (一財)新技術振興渡辺記念会 技術参事
杉浦 淳二 映像・展示プロデューサー
鈴木 ゆめ 横浜市立大学附属市民総合医療センター 一般内科教授・部長
武部 俊一 日本科学技術ジャーナリスト会議 理事
田嶋 炎 (一社)日本民間放送連盟 参与
土屋 敏之 NHK 解説委員室 解説主幹
長谷川 高士 ブロードメディア株式会社
長尾 英二 科学教育コンサルタント

主催団体

公益財団法人日本科学技術振興財団

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1 Tel.03(3212)8487 Fax.03(3212)0014

公益社団法人映像文化製作者連盟

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町17-18 藤和日本橋小網ビル7階 Tel.03(3662)0236 Fax.03(3662)0238

公益財団法人つくば科学万博記念財団

〒305-0031 茨城県つくば市吾妻2-9 つくばエキスポセンター Tel.029(858)1100 Fax.029(858)1107

一般財団法人新技術振興渡辺記念会

〒105-0013 東京都港区浜松町1-25-13浜松町NHビル5階 Tel.03(5733)3881 Fax.03(5733)3883

***62nd SCIENCE AND TECHNOLOGY
FILM/VIDEO FESTIVAL***



<http://ppd.jsf.or.jp/filmfest/>